



今日のトピック 米政策金利の見通し、先走り過ぎたマーケット 利下げ期待の巻き戻しを経てバランスの取れたシナリオ志向へ

ポイント1 再び3%台を付けた米長期金利

- 米10年国債利回り（米長期金利）は6月14日に3.48%を付けた後、低下に向かい、8月1日に2.61%まで低下しました。その後は上昇に転じ、8月22日に3.03%と7月20日以来の3%台乗せとなりました。この動きは金融政策の予想の変化を反映したものと考えられますが、金融市場では政策金利をどのように予想しているのか、フェデラルファンド（FF）金利先物市場で確認してみました。

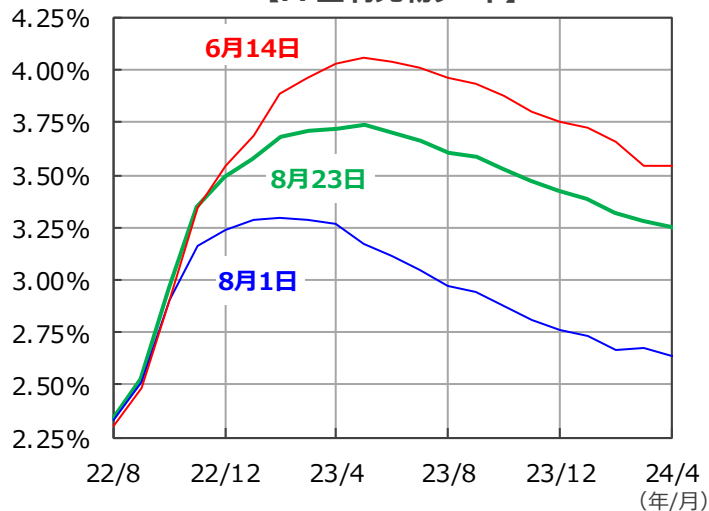
ポイント2 現在は極端に織り込み過ぎた利下げ期待の巻き戻し

- 6月14日、15日に米連邦公開市場委員会（FOMC）が行われ、0.75%の利上げが決定されましたが、結果発表前日の14日には、将来にわたる大幅な利上げ懸念が織り込まれました。その後は、利上げによってもたらされる景気後退後の利下げ期待を急速に織り込む展開となり、8月1日には政策金利の予測水準が大幅に低下しました。最近では米連邦準備制度理事会（FRB）高官から、行き過ぎた利下げ期待をけん制する発言が相次いだことなどもあり、利上げに対する懸念が再度高まっています。

今後の展開 バランスの取れたシナリオ志向へ

- 8月23日のFF金利先物市場では来年5月のFFレートを3.75%と予測しており、FOMC参加者が見込む23年末の政策金利予想と一致しています。今後のインフレ・景気・金融政策の期待形成がようやく落ち着き始めた印象です。
- 今後、ジャクソンホール会議（8月25-27日）やFOMC（9月20-21日）等、米金融政策は年末に向けて重要な局面を迎えます。FRBの金融政策はデータ次第になると見込まれますが、金融市場は一旦両極端な期待形成を経験しただけに、バランスの取れたシナリオを志向するのではないのでしょうか。すなわち、FRBは中立金利の2～3%を上回る水準へ利上げを行い、経済をある程度減速、インフレを落ち着かせてから利下げに転じる、というものです。

【FF金利先物レート】



(注1) データは2022年8月～2024年4月。2020年6月14日、8月1日、8月23日時点の限月別のFF金利先物レート。
 (注2) FF金利先物はFRBの誘導目標であるFF金利（翌日物）を参照する金利先物商品であり、シカゴ商品取引所（CBOT）に上場されています。
 (出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2022年8月18日 資産形成において、米景気後退をどう活かすか
 2022年8月 1日 金融相場的な色彩を強める米国株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。